

平成26年度 第1回 岐阜県地方改善促進審議会 議事要旨

1 日 時 平成27年2月18日(水) 10時30分～11時40分

2 場 所 岐阜県議会西棟 第一会議室

3 報告事項

- (1) 平成27年度同和対策関係予算の概要について
- (2) えせ同和行為について
- (3) 同和問題解消に向けた啓発活動について
- (4) 全国人権同和行政促進協議会について

4 発言要旨

【委員】 えせ同和行為を行った団体が所在する県担当部署に、団体の情報を確認しているか。

【県】 確認したが、そちらでは情報は把握されていなかった。

【委員】 ○○町で今年度実施された人権に関する住民意識調査の結果をご紹介いただきたい。

【委員】 「自分の心の中に差別・偏見がありますか」との設問に対して「ある」と回答があったのは、刑を終えて出所した人、同和地区の人、障がいのある方に対してが多かった。○○町では同和問題は重要な課題であり、今後も様々な施策を推進していきたい。

【委員】 えせ同和行為は少なくなってきたとはいえ、被害にあう企業等は未だにある。県としても、毅然とした対応をとられるよう企業等に啓発を行うことや、気軽に相談等ができる体制整備を検討していただきたい。

【県】 被害にあう傾向が高いと見られる中小企業等に向けても啓発のあり方を検討する。

【委員】 インターネット、SNSに他人を中傷する内容を掲載したことがある子供が5人に1人あるといった内容が報道されたが、小中学生に「何が人を傷つけるのか」を教育しなければならない。

【県】 各学校では、教科等の授業のなかで、インターネットを利用する際のルールやマナーについて学習している。教育委員会ではネットパトロールを実施し、注意すべき案件があれば学校に伝達するなど対応を図っている。

【委員】 悪意の連鎖・増幅が起きないように、子ども達にやさしさ、思いやりの心を育ててほしい。

【委員】 いじめなどの子どもの教育には言葉による指導も大切だが、屋外での遊びなどを通じて身を以て人とのつながり、触れ合いを実体験させ、心から納得させることや、地域全体が関わって子どもを育てることが大切。

【 県 】 いじめ対策は未然防止が重要。子ども同士お互いのよさを見つけ合う活動や、学校・家庭・地域が協力した体験的な活動に取り組んでいる。

【委員】 あと7年で全国水平社宣言から100年になる。これまで同和対策事業が進められ、同和地区に大きな環境の変化が見られたが、未だに結婚問題や土地差別といった問題はある。同和問題の解決のためには、「マイナスイメージの記憶と伝承の連鎖を断ち切り、差別・被差別の和解と関係の修復を図る地道な努力を進める」ことが必要である。

【委員】 同和問題は、知らない人にも正しく知ってもらうことが必要。